１　全体方針

世界農業遺産「清流　長良川」の源流に位置する郡上地域は、海抜 110m～1,000mに位置し、管内面積 1,031 ㎢の約 9 割を森林が占める中山間地域である。

農地面積の約 2,900ha のうち水田 2,100ha、畑地 800ha であって、豊かな自然環境と多様な条件を生かした農業生産が行われている。

しかし、地域の人口減少と高齢化に伴う担い手不足や農業従事者の減少のほか、夏場の高温や異常気象への対応、中山間地域であるがゆえの輸送コストといった生産経費の増大や市場価格の変動など課題は多い。

こうした農業を取り巻く状況の中、令和８年３月に策定した「ぎふ農業活性化基本計画」では「楽しい農業・儲かる農業」の実現を目指して、「新たな担い手の確保」、「潜在力をフル活用した生産強化」、「新たな流通ルートの開拓、販路拡大」、「安心できる農畜水産業と農村の環境整備」の４つの基本方針を掲げ、各種施策を展開していくこととしている。

そこで、令和８年度から令和 12 年度の５カ年間における普及指導活動方針として、令和８年３月策定の「協同農業普及事業の実施に関する方針」に基づき、「ぎふ農業活性化基本計画」の実現によって、中山間地域に位置する郡上管内の農業の営みと農村の暮らしを守り育てることを目的に、以下の取組を展開するものとする。

２　主な取組方向

（１）多様な主体の参画促進

①アグリパーク構想の実行

アグリパーク構想におけるスタートアップの「場」の設置主体を対象とし、郡上地域の農業が直面する課題に対応し、多様な主体による創意工夫あふれる「取組」が展開されるよう支援する。

②農福連携等の取組強化

福祉事業所による農福連携への取組や農外企業の参入については、「ぎふ農福連携推進センター」や「ぎふアグリチャレンジ支援センター」と連携し情報提供や事例紹介などの支援を行う。

③女性の経営参画の促進

女性農業経営アドバイザーを中心とした研修会や情報交換会の企画・開催に取り組むほか、女性による起業化やそのための施設導入に対する支援を行う。また、女性や後継者の役割を明確にして経営参画への意識を高めるため「家族経営協定」の締結を進める。

（２）地域農業を牽引する経営体の育成

①就農ルートの充実。経営継承の推進

就農希望者に対しては、就農支援制度や郡上地域に適した営農モデルの提示、現地事例紹介等の営農相談を行うとともに、「中濃地域就農支援協議会」を中心に関係機関と

連携して、就農希望者のニーズに応じ基礎知識の習得や農作業体験から就農を目指した本格的な研修まで幅広く支援を行う。

夏秋トマトでは、ＪＡめぐみのが運営する「郡上トマトの学校」を中心に体験コースや研修生の受入を行っているが、修了後に地元部会へスムーズに加われるよう産地訪問や部会員との情報交換会など生産現場と技術・経営面での連携を支援する。

新規就農者の初期投資の負担を軽減するため、リタイヤする担い手の農地や生産施設・資材だけでなく、技術やノウハウも包括的に引き継ぐ「居抜き型」の経営継承の取組を強化するなど、就農ルートを充実する。

また、指導農業士やあすなろ農業塾長による様々な品目での研修の受入については、中濃地域就農支援協議会が開催する座学への参加を促すなど就農に向けて必要な知識の修得を支援する。

研修中に作成する就農計画については、栽培面だけでなく必要な資本装備や労働力の確保、投資額や借入金等について関係機関との連携のもと、早期の経営安定を目指した計画づくりを指導する。

さらに、認定新規就農者が速やかに認定農業者に移行できるよう、経営改善計画の策定やその実現のための技術力・経営力向上について関係機関と連携のもと伴走支援を行う。

（３）潜在力をフル活用した生産強化

①農産物の供給力強化

水稲では、平成 27 年度から始まった「郡上おいしいお米コンテスト」で培ってきたデータを元に土壌づくりや水管理、施肥体系の改善による良食味米の生産安定技術の普及を図る。

また、ブランド化にあたっては、農業者の組織的な販売活動について、市やＪＡと連携して支援する。また、高温化の気候変動に対応した対策技術についても検討を進める。

大規模な稲作経営体に対しては、ブランド米の生産だけでなく業務用米やＷＣＳ、飼料米など多様な水稲作のほかに、麦茶として実需ニーズの高い品種への転換した大麦を含め、大豆やそばといった土地利用型作目を組み合わせ安定的な経営を支援する。

また、地域計画のブラッシュアップと実現に向けて、市やＪＡとの役割を明確にし、集落営農組織の経営安定を支援する。

スマート農業については、防除用ドローン、ラジコン草刈機、環境モニタリングシステム等が一部の先進的農家で導入されており、それら活用事例を収集し、水稲、夏だいこん、夏秋トマトといった主要品目でスマート農業技術を活用した省力化を支援する。

②魅力ある農産物づくり

(a)南天

国内でも数少ない南天産地のひとつであり、市場からは安定的な出荷を求められている。新規栽培者を募るとともに、高齢化により管理できない園地の経営移譲により栽培面積の維持拡大と生産量の安定・品質確保を支援する。

(b)果樹（梅・柿）

剪定技術向上のための研修会や加工・販売事業者を交えた組合活動の支援を通じて、延年蜂屋柿や梅干の地域特産品としてのブランド化を進める。

（４）新たな流通ルートの開拓、販路拡大

消費者の安全・安心志向の高まりや生産者の多様な販売の取組が進む中で、有機農業といった特色ある地元農産物の生産やその加工品の販売など魅力ある朝市、直売所づくりに向けて支援を行うとともに、市と連携し学校給食や地元飲食店での地元農産物の利用促進を図ることで、「地消地産」の取組を展開す。

また、農業の６次産業化を一層推進するため、農業者自らによる加工・販売や商工業者と連携した魅力ある商品開発について専門家派遣や「ギフツプレミアム」の活用を支援する。

（５）安心できる農畜産業と農村の環境整備

①気候変動への対応

(a)だいこん

全国有数の夏だいこん産地として、安定的な生産量と高い品質を確保するため、夏季高温など気候変動に対応した収量、品質維持・向上に向けた栽培技術（品種選定、病害虫、かん水方法等)の確立に向けた取組を支援する。

また、産地を支える各農家の経営基盤の安定化向け、経営改善や後継者への経営継承を支援する。

(b)夏秋トマト

「郡上トマトの学校」や「あすなろ農業塾」を修了した新規就農者がいち早く産地の担い手となれるよう作業の進捗管理や栽培技術の重点指導を行うことで、就農計画の目標達成を支援する。

また、産地に対しては新品種の普及拡大や夏場の高温対策、新たな病害虫への対応、データを活用した栽培管理といった技術的な課題解決に加え、消費者の安心と信頼に応える持続的な産地づくりを目指す。

加えて、環境モニタリングシステムや夏秋トマト３Ｓシステム等のスマート農業技術については、農家の経営状況に併せて導入を支援する。

(c)夏秋いちご

夏場の高温期における種々の資材の利用や天敵資材の導入等による持続的な高品質・安定生産に向けた栽培技術の確立を目指す。併せて、県内で数少ない夏秋イチゴ産地である「ひるがの高原いちご」の特徴を活かした有利販売による安定経営を支援する。

(d)切花

ユリ・トルコギキョウでは、夏場の高温期に適応した品種の導入や土壌病害対策による高品質・安定生産に向けた栽培技術の確立とその普及を図る。

県育成の花きであるフランネルフラワーの切り花としての生産技術を確立するため、現地に適した栽培マニュアルづくりを進める。

②持続可能な農業生産の推進

郡上市は農業産出額の半分を畜産が占めており、その家畜排せつ物の有効活用を図るため、家畜排せつ物由来の堆肥の特性（土壌改良効果、肥料効果など）を踏まえ、堆肥利用の拡大を図るため堆肥ペレットの実証等、耕畜連携体制を強化する。